

自立支援医療(更生医療)意見書

(肝 臓 機 能 障 害 用)

氏 名		男・女	生年月日	年 月 日 (歳)
住 所				
職 業	現 ・ 元	保険	有・無	保険
原傷病名				
現 症	臨床症状(かっこ内の該当するものを○で囲んでください。) 1 肝性脳症 (なし ・ 軽度 ・ 昏睡) 2 疲労感 (なし ・ 強い倦怠感 ・ 易疲労感) 3 腹水 (なし ・ 軽度 ・ 中程度以上) 4 痙攣 (なし ・ あり) 5 黄疸 (なし ・ 眼球 ・ 皮膚 ・ 便 ・ 尿) 6 出血 (なし ・ 内出血 ・ 吐血 ・ 下血) 7 嘔気・嘔吐 (なし ・ あり)			
	検査成績 血清アルブミン値 g/dl GOT(AST) U/ℓ 血清総ビリルビン値 mg/dl GPT(ALT) U/ℓ PT(プロトロンビン)時間 % 血小板 $\times 10^3/\text{mm}$ 血中アンモニア濃度 $\mu\text{g/dl}$ HBs抗原 IU/ml 血清クレアチニン値 mg/dl HCV抗体 S/CO			
自立支援医療の要否	必 要 ・ 不 要			
医療の具体的方針				
医療開始予定	年 月 日	指定医療機関		
入 院 日 数	日	通院日数	月 日 (週 回)	
医療費概算額	入院(総額) 円	外来(月額)	円	
治療効果見込み	※ ここへ効果見込みを具体的に記入願います。			
術前の等級	術後の等級			
級	級			
意見書作成年月日 年 月 日				
医療機関名				
医師氏名 印				

自立支援医療(更生医療)要否意見書記入上の留意事項

現症欄(臨床症状)について

1 肝性脳症の昏睡度分類は、犬山シンポジウム(1981年)による。

I、II : 軽度

III以上 : 昏睡

昏睡度	精神症状	参考事項
I	睡眠-覚醒リズムの逆転 多幸気分、ときに抑うつ状態 だらしなく、気にもとめない態度	retrospectiveにしか判定 できない場合が多い
II	指南力(時・場所)障害、物を取り違える (confusion) 異常行動(例:お金をまく、化粧品をゴミ 箱に捨てるなど) ときに傾眠状態(普通の呼びかけで開眼 し、会話ができる) 無礼な言動があったりするが、医師の指示 に従う態度をみせる	興奮状態がない 尿、便失禁がない 羽ばたき振戦あり
III	しばしば興奮状態または譫妄状態を伴い、反抗的態度 をみせる 嗜眠状態(ほとんど眠っている) 外的刺激で開眼しうるが、医師の指示に従わない、また は従えない(簡単な命令には応じうる)	羽ばたき振戦あり(患者の 協力が得られる場合) 指南力は高度に障害
IV	昏睡(完全な意識の消失) 痛み刺激に反応する	刺激に対して、払いのける動 作、顔をしかめる等がみられ る
V	深昏睡 痛み刺激にもまったく反応しない	

2 疲労感(強い倦怠感、易疲労感)は、1日に1時間以上の安静臥床を必要とする状態が
月7日以上

3 腹水は、超音波検査、体重の増減、穿刺による排出量を勘案して見込まれる量による
軽度: おおむね1ℓ以上
中程度以上: 概ね3ℓ以上ある